

聖書日課 『からし種』 2024.6.30-7.7

<p>6月30日 (日)</p> <p>イザヤ 23章</p>	<p>「しかし彼女(ティルス)の利益と報酬は、主の聖なるものとなり…主の御前に住む者たちの利益となり…」(18節)。海外貿易で豊かな富を得ていた港町ティルスは、アッシリアにより滅ぼされてしまう。が、滅びを通して「主の聖なるもの」とされる新しいティルスをイザヤは語る。人間の栄光ではなく神の栄光を求めていく時、人々の心に賛美があふれていく。</p>
<p>7月1日 (月)</p> <p>イザヤ 24章</p>	<p>「それゆえ、あなたたちは東の地でも主を尊び／海の島々でも、イスラエルの神、主の御名を尊べ」(15節)。24章は「世界審判」についての預言。イザヤの目はイスラエルだけでなく世界に注がれ御言葉を取り次ぐ。なぜなら主なる神がすべての民をご自分の民として愛しておられるから。人間の傲慢が裁かれる世界の中に、主は賛美する者を起こされる。</p>
<p>2日 (火)</p> <p>イザヤ 25章</p>	<p>「わたしはあなたをあげめ／御名に感謝をささげます。あなたは驚くべき計画を成就された／遠い昔からの揺るぎない真実をもって」(1節)。旧約聖書はその初めから神に背き続けてきた人間の姿を記している。どれだけ造り主なる神に悲嘆と失望を与えてきたことか。しかしそんな私たちに、主は「驚くべき計画」をもって「遠い昔からの揺るぎない真実」を示される。</p>
<p>3日 (水)</p> <p>イザヤ 26章</p>	<p>「主よ、平和をわたしたちにお授けください。わたしたちのすべての業を／成し遂げてくださるのはあなたです」(12節)。今日も世界中で起こされている愚かで無益な殺戮を止められない私たち自身の無力さを示され、祈ることをやめてしまいそうになるけれど、平和を授けてくださる十字架の主に依り頼み、「成し遂げてくださるのはあなたです！」と祈っていこう。</p>

聖書日課 『からし種』 2024.6.30-7.7

<p>4日 (木)</p> <p>イザヤ 27章</p>	<p>「その日には、見事なぶどう畑について喜び歌え。主であるわたしはその番人。常に水を注ぎ／害する者のないよう、夜も昼もそれを見守る」(2-3節)。主はイスラエルに水を注ぎ、夜も昼も見守り、喜びと賛美に招かれる。「わたしの喜びがあなたがたの内にあり…あなたがたの実が残るように、わたしが任命した」(ヨハネ 15:11、16)。主の呼びかけを聴く者とされて。</p>
<p>5日 (金)</p> <p>イザヤ 28章</p>	<p>「わたしは一つの石をシオンに据える。これは試みを経た石／堅く据えられた礎の、貴い隅の石だ。信ずる者は慌てることはない」(16節)。厳しい試みを経た石、すなわちイエス・キリストの十字架は、私たちの間に堅く据えられた貴い隅の石。どんな邪悪も、その救いの業を止めることはできない。今日の歩みが、この貴い隅の石を土台にした一足一足となるように。</p>
<p>6日 (土)</p> <p>イザヤ 29章</p>	<p>「その日には、耳の聞こえない者が／書物に書かれている言葉をすら聞き取り／盲人の目は暗黒と闇を解かれ、見えるようになる」(18節)。「その日には」とイザヤが預言した救い、「多くの預言者が見たかったもの」(マタイ 13:17)は、イエス・キリストにおいて実現した。この主イエスの救いの光に照らされ歩むことのできる幸いを心から感謝し宣べ伝えていこう。</p>
<p>7日 (日)</p> <p>イザヤ 30章</p>	<p>「今、行って、このことを彼らの前で／板に書き、書に記せ。それを後の日のため、永遠の証しとせよ」(8節)。「聖書」は、信仰者たちが主の臨在とみこころを記した証しの書集であると言えるだろう。自分たちが世を去った後の日、誰かが読むことを思えば大きなチャレンジであったに違いない。それを今読む我々も、どう受け取っていくかにチャレンジを感じる。</p>